

鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画策定委員会 第3回委員会 会議録

日 時 平成26年12月1日(月) 10時30分～12時
場 所 鎌ヶ谷市役所3階303会議室
出席委員 品川洋之助委員長、李明今委員、遠藤尚子委員、
太田侑子委員、高橋寛委員

(敬称略)

事務局 川名企画政策室長、仲村主任主事

記 録 仲村

傍聴者 なし

(1) 会議録署名人の選出について

(委員長)

委員名簿順に基づき、今回の議事録署名人は、高橋委員、李委員にお願いしたい。

(2) 「鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画(案)」の承認について

(事務局)

資料に基づき、「第2回委員会からの修正事項」及び「計画(案)」を説明

(委員長)

それでは、何かご意見のある方はご発言願いたい。

(A委員)

片仮名にもルビを振るのか？

(B委員)

どちらでも良いとは思いますが、片仮名の方が平仮名よりも難しいと思う。

(C委員)

平仮名しか使わない外国人の方もいるので、片仮名にもルビを振った方が
良い。

(委員長)

事務局の考えはどうか？

(事務局)

全ての外国人の方にご覧いただけるように、片仮名にもルビを振った。

第一次の計画も片仮名にルビを振っており、今回の計画もそのように対応
したい。

(A委員)

ルビが多いと読みにくい場合もある。

(事務局)

行間を開ける等、読み易くする工夫をさせていただく。

(D委員)

片仮名を読めない外国人の方のことも考えると、ルビはあった方が良い。

(B委員)

片仮名にもルビを振った方が外国人の方にはやさしいと思う。

話は変わるが、鎌ヶ谷市には日常生活で何か問題が起きた時に相談できるような外国人の方に特化した窓口がないように思う。

(D委員)

地震等の災害が起きた時に真っ先に助けてくれるのは自治会なので、自治会に加入していれば解決できる問題は多くある。

(B委員)

自治会がどこまで外国人の助けになるかわからない部分もある。

(D委員)

市が地域の方のお困りごとを全て吸い上げることはできないので、地域で解決できる部分は自治会が中心となって取り組んでいる。

(事務局)

市は最低限の住民サービスは提供していく義務があるが、地域のゴミ出しや防災・防犯等で地域の方の協力が必要となってくる場合は、自治会にお願いしている部分がある。

(A委員)

そのような中で、外国人相談窓口の設置について計画に盛り込んだことはとても意義があることだと思う。

設置された多文化共生推進センターが外国人の方へのワンストップサービスを提供できる拠点施設となれば良い。

(事務局)

本計画の先に、自治会、多文化団体、外国人住民等で構成される多文化共生推進会議の設置を予定しており、その会議の中で具体的な話し合いをしていきたい。

(委員長)

外国人相談窓口の設置について計画に盛り込んだことは一歩前進であると思う。

また、自治会の中に外国人対応の窓口を設けても良い。

(B委員)

多文化共生推進センターに外国人が訪れた時に、自治会に関するご案内等もしていただけると良いだろう。

(D委員)

自治会に関するご案内は市民課や不動産会社にご協力いただき、PRをしているところではあるが、なかなか外国人の方へは浸透していない。

(B委員)

まずは多文化共生推進センターへ訪れてもらうことが必要となることから、窓口対応等の職員の対応力の強化も必要となってくる。

(委員長)

市職員と多文化共生推進センター通訳ボランティアが協力して対応していくことが重要となるだろう。

(B委員)

「P 8 4 計画の位置づけと基本的考え方」に平成29年度に見直しの必要性を検証する点が明記されているが、これはどういうことか？

(事務局)

後期基本計画や社会の変化に合わせた計画の見直しの必要性を検証するということである。

(3) その他

(事務局)

本日で鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画策定委員会は終了となる。

なお、今後は庁議、パブリックコメント、市長決裁を経て来年3月中旬頃に計画を決定する予定である。

(委員長)

それでは、本日で鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画策定委員会を終了する。

今までの皆様のご協力に感謝する。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成27年1月13日

氏名

高橋 寛

氏名

李 明今
